

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。

紹介する民話は、子どもたちに、ふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

松浦の民話②

人間には、 歯が立たん



調川の山の田には、あちらこちらに堤がありました。今でも残っています。そこには、河太郎（河童）がおりました。

夜おそく、わたしが田から家に帰ろうとしていたら、ヒョー、ヒョー、ヒョーと鳴きながら、わたしの前を通り過ぎて行きました。

実は、その河太郎は、人里からだいぶはなれた堤に、ひとりだけ住んでいるのです。

その晩も、調川の下免あたりの人家のあかりをながめていました。河太郎は急に、そこへ行きたくなりました。家の所まで走って行って、中の様子を見てみると、ごちそうを食べているようでした。

「あはん、こりゃ、五月の節句んごちそうば食いよるごたるな。」と、思いました。

毎年のことで、五月の節句のごちそ

うは、どこの家も、たけのこ、こうやどうふ、かまぼこのにしめなど、重箱に何段もつめ合わせてあることを、河太郎も知っていました。

河太郎は、そのまま仲間に入れてもらいたかったけれど、

「待てよ、こぎゃんごちそうの中に入れてもらうとに、手ぶらじゃ、人間様に申しわけなか…。」

いつとき思案して、河太郎は、自分の住んでいる堤まで、走って帰って行きました。そして、堤に着くなり、直ぐにぎぶーんと飛びこみ、もぐつてしまいました。しばらくして、上がってきたときは、河太郎のこわきには、こいをびきだきかかえていました。

それを、堤のそばの竹のささにぬき通して、また下免に下ろうとしましたが、

「待てよ、一ぴきじゃたらんごたる…。」そうつぶやいた時には、また、ぎぶーんと飛びこんでいました。

河太郎は、二ひきのこいをささにぬき通し、かたにかけて、節句の仲間に入れてもらいに行きました。

「河太郎か。よう来た。はよあがれ。」

みやげの魚は、二ひきともいろりの自在かぎにひっかけて、節句の仲間入りをしました。ひとしきり話がはずんだ後は、うでずもう大会になりました。河太郎は、

「よかよ、見とくて。」

と言って、ことわっていました。とうとう相手をさせられました。

河太郎が、ヒョーと、ちよつとばかり力を入れると、調川の力自まんできえ、ひとひねりでねじふせられてしまいました。

一息ついて、河太郎がごちそうのつまった重箱に目をやると、そこのおかみさんが、子どもに竹の子のにしめを取ってやっていました。自分も小皿に竹の子のにしめを取ると、ふたりはうまそうに、がりがり食べていました。さすがの河太郎も、それを見てこわくなり、家の外に出ました。

「人間は歯の強かといね、女、子どもでも、竹ばかりがり食べよった。人間はおとろしか。おりやあ歯のたたんばい。」

河太郎は、人間にかみつかれたらどうしよう、ヒーヒー泣きながら堤に逃げて行きました。（調川町）

■あなたの力作を募集！

— 民話の感想画募集 —

この民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上、左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。

応募いただいたイラストは審査をし、上位のものを次の市報で紹介しします。

【応募資格】

住所、年齢、性別など何も問いません。どなたでも応募できます。

【イラストの規格】

はがきまたはA4サイズ以内の白紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの（色鉛筆の場合は濃く塗ってください）。

【必要事項】住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢、職業（学校名）

※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。

※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。

※なお、いただいた個人情報（民話コーナー以外には使用しません）

【応募締切】5月14日（金）必着

【応募・問合せ先】

〒859-4598

松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課秘書広報係

☎0956-72-1111

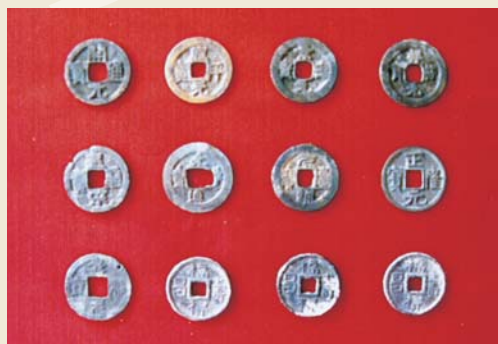
Eメール=hisyo@city.matsura.lg.jp

※福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。

中世の松浦（18） 鷹島海底遺跡

鷹島海底遺跡からは銅銭が出土しています。その中でも神崎港で行った平成14年の確認調査では、水深約10・5メートルの地点から銅銭88枚が1カ所に集中して発見されました。この銅銭は、すべて表に「太平通寶」の文字が刻まれており、中国北宋代の976年に初鑄造されています。88点の銅銭はほぼ同じ大きさで、径は約2・4センチ、厚さは約1ミリあります。

また、平成13・14年度の緊急調査でも14点の銅銭が出土しています。初鑄造年が唐の621年の開元通寶は、宋代以降にも多く用いられた銅銭で、咸平元寶（998年）から、景德元寶（1004年）、祥符元寶（1009年）、皇宋通寶（1038年）、元豐通寶2点（1078年）、崇寧通寶（1102年）、崇寧重寶（1103年）は、すべて北宋代に鑄造された銅銭です。このほかに、金（中国北部を支配していた女真族の王朝）の正隆元寶（1157年）があります。さらに14点のうち3点は実用銭ではない「福祿壽昌」です。福祿壽昌は、中国において縁起物や護符とする銭で、日本ではここ鷹島海底遺跡から出土しているだけです。



▲写真下、右3点が「福祿壽昌」

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「どじょうなべ」のイラストに、3通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。

【最優秀賞】



矢野みさきさん（福島・浅谷、39）
「どじょうがたくさん入ったとうふを食べたかんねどんの顔がとってもうれしそうですね」か

【優秀賞】



A・Kさん（御厨、9）
「とうふの中に隠れているどじょうが面白いですね。煮えるのをたくさんの人が待っているようですね」か



Y・Kさん（御厨、9）
「とっても大きな鍋ですね。何人分できるんでしょうか？鍋の上で跳ねているどじょうがかわいいですね」か